

京都市生涯学習市民フォーラム加盟団体への少子高齢社会に関するアンケートで寄せられた主なご意見を御紹介します。

61団体から御回答をいただきました。

(回答者内訳) 男性:28, 女性:31 (不明:2)

20代以下:6, 30代:11, 40代:17, 50代:11, 60代以上:12 (不明:4)

貴団体において、子育てや家庭教育の支援、高齢者への学びの場の提供など、少子高齢化に関わるような活動をされていらっしゃるいましたら、具体的な活動内容を教えてください。



- 地域高齢者の生涯学習講座、スポーツ教室等の運営やボランティア募集（類似意見多数）
- 小中学生への各種の体験教室や出前授業等の実施
- 企業OB人100名が市内小中学生の『京都モノづくりの殿堂・工房学習』の学習支援員『京モノレンジャー』として活動
- 保護者向けの子育て講演会の開催、親育事業、子育てセミナー
- 若いお母さんが働いている間の子育て支援
- 高齢者支援や子育てを行う「まちの居場所」の情報提供及び「まちの居場所」開設講座の開催
- 学生と地域高齢者を結び、学生が主体になって行う事業
- 定期的に福祉施設やデイサービス施設に出向いての出張講座
- 子ども連れでも参加できるカルチャー教室
- 従業員が子育てをしやすい勤務制度の構築（育児休職制度や短時間勤務など）
- 少子高齢社会に関する報道、研究・政策提言や調査・研究
- テレビ・ラジオ放送による大学教育の実施

また、その活動を通して感じることや工夫している点があれば、あわせて教えてください。



- 向学心の高い高齢者が非常に多い。
- 各世代によって異なる関心事や身近な話題を取り入れる。受講対象者に応じたセミナー内容の検討。
- 来館型講座への集まりが悪くなっているため、他機関との連携して出張型の事業を併行する。
- 様々な世代、子どもから高齢者まで「安全」に楽しんでもらえるような配慮。
- 子どもを預かることのできる会社が少ない。子育て中の従業員が働きやすい環境整備が急務。
- 異年代交流を深める。
- 障害者の方々にも文化活動への積極的な参加を勧める。
- 事業やイベントの後には必ず楽しい懇親会を…

少子高齢化が進むと、団体の活動はどのような影響を受けるとお考えですか。



【プラス面（長所）】

- ・ 時間とお金にゆとりのある高齢者が増えることで、活動の対象者・事業の参加者が増加し、ニーズが高まる。ボランティア希望者が増える。
- ・ 生涯学習を楽しむ世代が増え、提供する事業内容の充実を図ることができ、企画の方向性を決めやすい。
- ・ 経験豊富な方々からいろいろな知識を学べる。
- ・ 少子化が進むと、ひとりひとりの子どもやその親に、きめ細やかな配慮ができる。
- ・ 高齢者を支える人材確保のために女性の就職率がますます上がるため、子育てに関する事業の需要は変わらないと予測。

【マイナス面（短所）】

- ・ 利用者数全体が減少し、活動の停滞・低下につながる。
- ・ 団体の運営（資金・事業・事務等々）が大変に。後継者・担い手層不足も。
- ・ 類似内容の事業が乱立。特色を出した少人数参加型の事業展開が必要で費用対効果が厳しくなる。
- ・ 世代のバランスが悪くなり、提供事業に偏りが生じる。多様性が欠如する可能性がある。
- ・ 青少年交流などの機会の減少。
- ・ 子どもたちが高齢者に対する心構えを経験する場が少なくなる。
- ・ 社会全体の活力がなくなる。

**身近な場面で、少子高齢社会であることを感じることはありますか。
どんなとき、どんなことに感じるか教えてください。**



- 地域の行事や学区民の運動会に参加したときに、参加者の年齢層が高く子どもの割合が少ない。
- 京都のまちの夏の一大イベント『地蔵盆』。地元の子どもの数が少なくおじいさん・おばあさん多数の数珠まわしでさみしくなった。
- 独居老人が地域に増えた。孤立死、老老介護等のニュースも多くなってきた。
- 団体の役員やスタッフの高齢化
- 参加者や来館者、相談者の高齢化
- 小中学校の統廃合が増えている。クラス数も減少。
- 子どもの遊んでいる姿を見かけなくなったように思う。昔はまち中が子どもの声であふれていた。
- 市バスに乗ったとき。(特に平日の日中は高齢者で満員。)
- 病院などあらゆる場所で高齢者が多いと感じる。
- ひとりっ子が珍しくなくなった。

少子高齢社会に対応して、京都をどのようなまちにしたいと思いますか。



- 全国からやってくる学生が卒業後も住み、仕事に就き、家庭を持ち、子どもを産み、「子どものまち・京都」と謳える子育てにやさしい都市に。ただ、卒業後の就職先が多くないので、定住して次世代に継がれていきにくいのではないか。
- 若者が未来に希望を持ち、将来の不安に押しつぶされることなく「子どもを産み育てたい！」と思えるようなまち
- 若者が元気になれる京都であってほしい。若者が夢をもてるまちづくりを。
- 若者(学生)と高齢者のつながりのあるまち、世代間での交流が積極的に行われるまち
- 子どもたちと高齢者が集い、活動できる場所(高齢者施設と保育所や学童施設とのコラボレーション)がたくさんある、元気な笑顔があふれるまちにしたい。
- 高齢者の豊富な経験知識を活用できるまち
- 高齢者が生き生きしているまちには、自然に幸福感が満ちるように思う。
- リタイアした経験豊かな高齢者が生産世代の親の子育て支援を引き受けてくだされば、子どもたちにとっても素晴らしい経験になるはず。
- 働く女性が子どもを産んでも預けられる場所や子育てのサービスが充実したまちになってほしい。
- 小さな子どもも高齢の方も、それぞれが必要とされていると感じることのできるまち
- だれにとっても安心、安全なまち(障害のある人もない人も高齢者にも子どもたちにも…)
- 独居の方に対して地域で見守り、声をかけるなど、向こう三軒両隣の精神で向き合えるまち
- 全世代の人が歩きやすく、暮らしやすいまち、交通弱者(お年寄りや幼児連れ)にやさしいまち

その他、少子高齢化社会についてご意見があればお聞かせください。



- それぞれの世代がその役割を果たし、自助・共助の精神を大切に。
- 高齢者がひとりでも安心して生活ができ、家庭の外にも居場所があることが大切になってくる。
- 高齢者にとって居心地の良いまちは、若者や働き盛りの層にとっても魅力的なまちであるはず。
- 安定した生活と収入があってこそ将来に希望を抱き家庭を持つことができる。日本の未来を担う子どもたちが増えるよう若者世代の雇用に励むことも少子化対策ではと考える。
- お互いの足りない部分を補い合える関係が気軽に築ける場が身近にあればよいのでは…